

決算説明会

平成30年5月期(第26期)

(平成29年6月1日 ~ 平成30年5月31日)



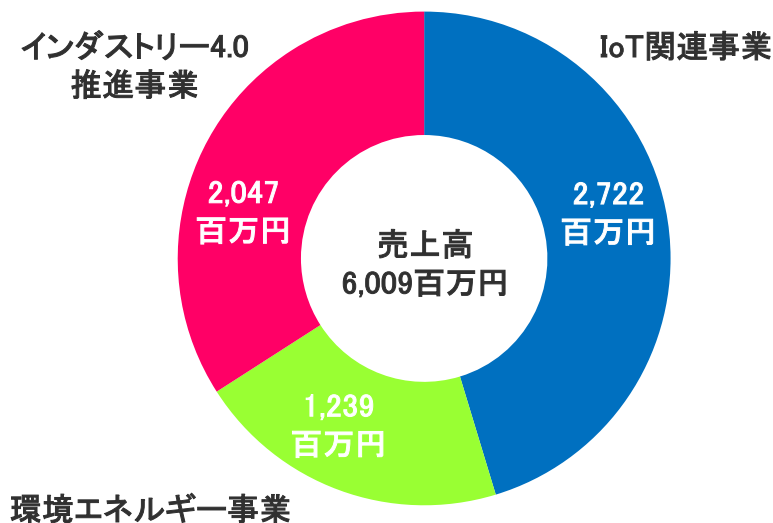
目次

1. 通期業績サマリー
 2. 平成30年5月期 決算詳細
 - ① IoT関連事業
 - ② 環境エネルギー事業
 - ③ インダストリー4.0推進事業
 - ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
 - ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書
 - ⑥ 受注高・売上高・受注残高
 3. 平成31年5月期 通期連結業績予想
 4. TOPICS
 5. 企業価値向上の取り組み
- appendix - 会社紹介 -

1. 通期業績サマリー

通期業績サマリー

- IoT関連事業セグメントが好調に推移した結果、連結ベースでは大幅な増収、増益となり、過去最高益を更新した
- 東京テクニカルの完全子会社化における企業取得関連費用並びに新製品の開発費用等の計上に伴い、一時的な費用が発生した為、インダストリー4.0推進事業については上半期は1億円の損失と低調なスタートとなったが、下半期は3千万円の利益の計上となった



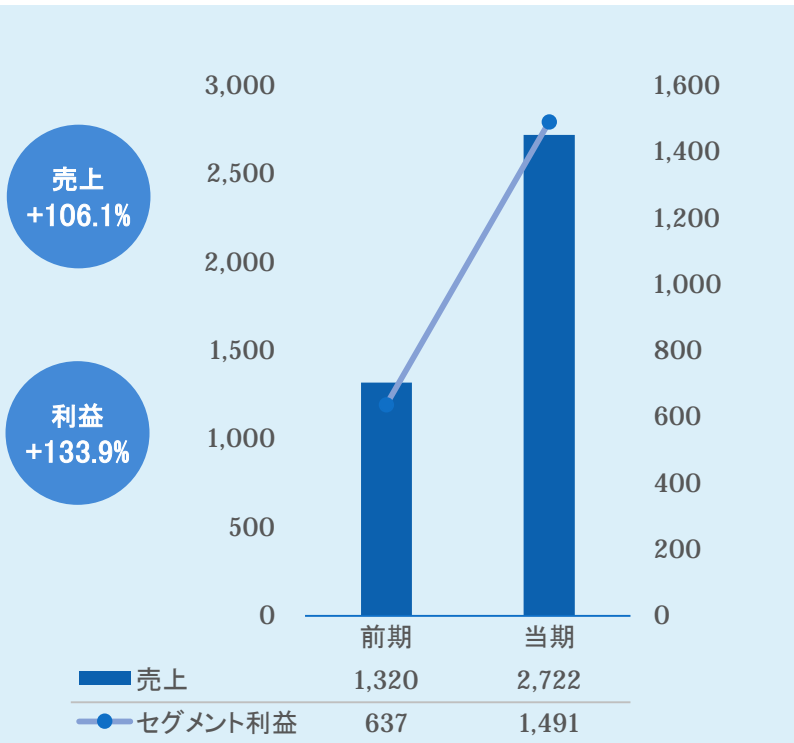
(百万円)	前期	当期	前年比増減率
売上高	5,369	6,009	11.9%
営業利益	435	1,006	131.1%
経常利益	417	988	136.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	394	686	74.0%
1株当たり当期純利益	41.52円	72.58円	-
ROE	13.2%	20.1%	-
ES	6.5%	13.3%	-

2. 平成30年5月期 決算詳細

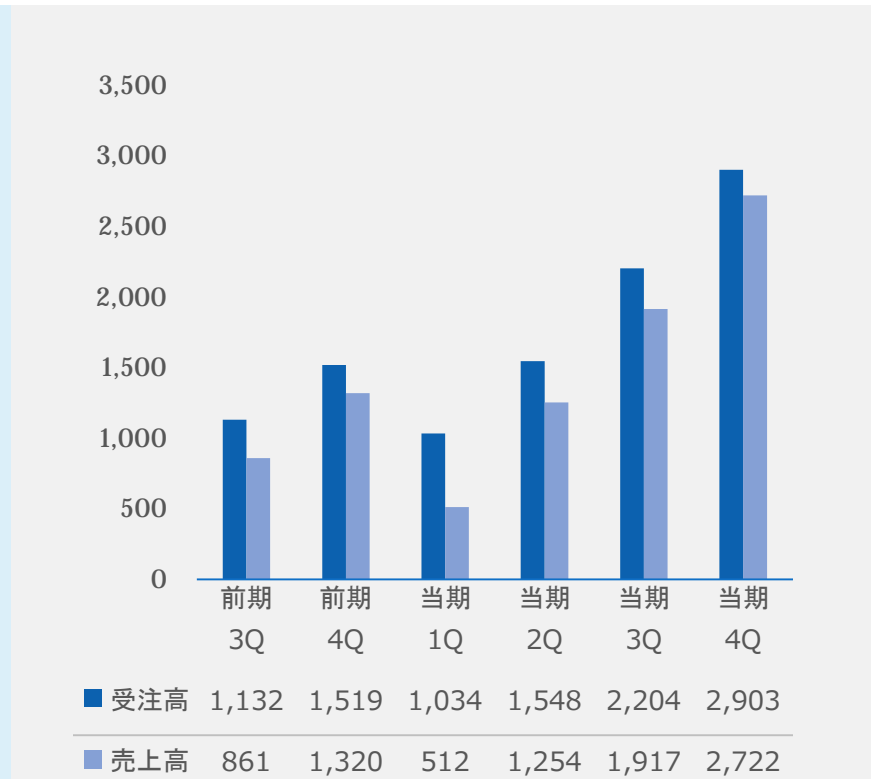
① IoT関連事業

➤ スマートフォンの高機能化や車両への搭載等によるイメージセンサの需要拡大を背景に、CCD及びC-MOSイメージセンサ向け検査用光源装置及び、瞳モジュールの販売数が好調に推移。新デバイス向けの光源装置についても売上を計上することができた

売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移 (累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位:百万円

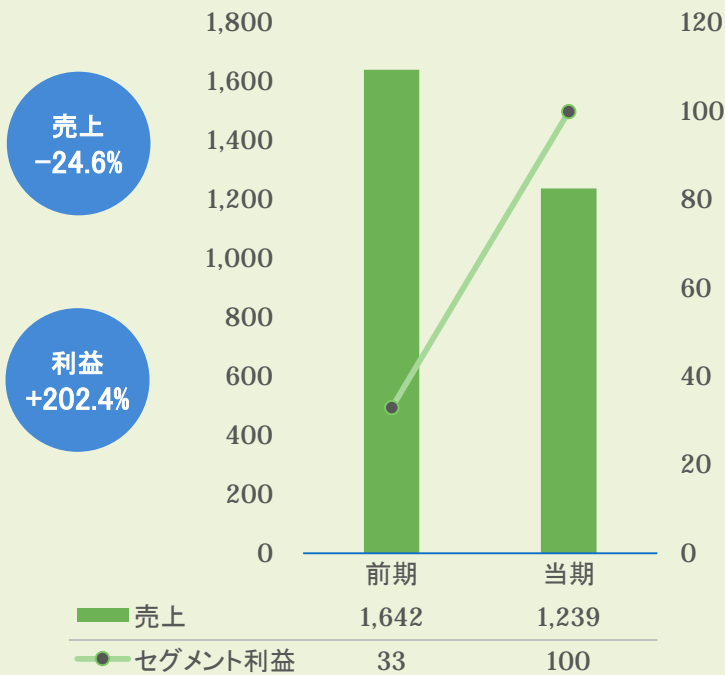
単位:百万円

単位:百万円

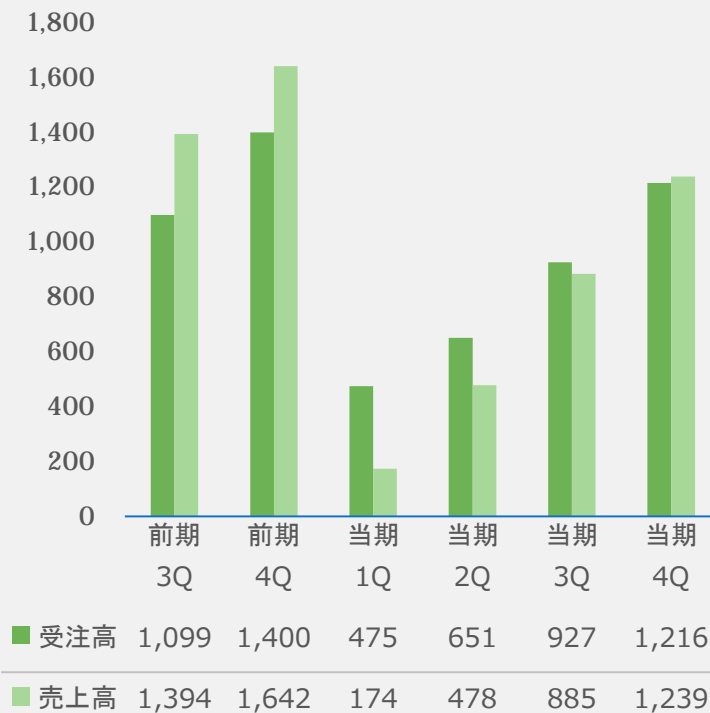
② 環境エネルギー事業

- 印刷機メーカーの設備投資の抑制等により売上高は低調に推移
- 一方、前期に不採算となっていた再生可能エネルギー事業から撤退したことにより利益率は大幅に改善

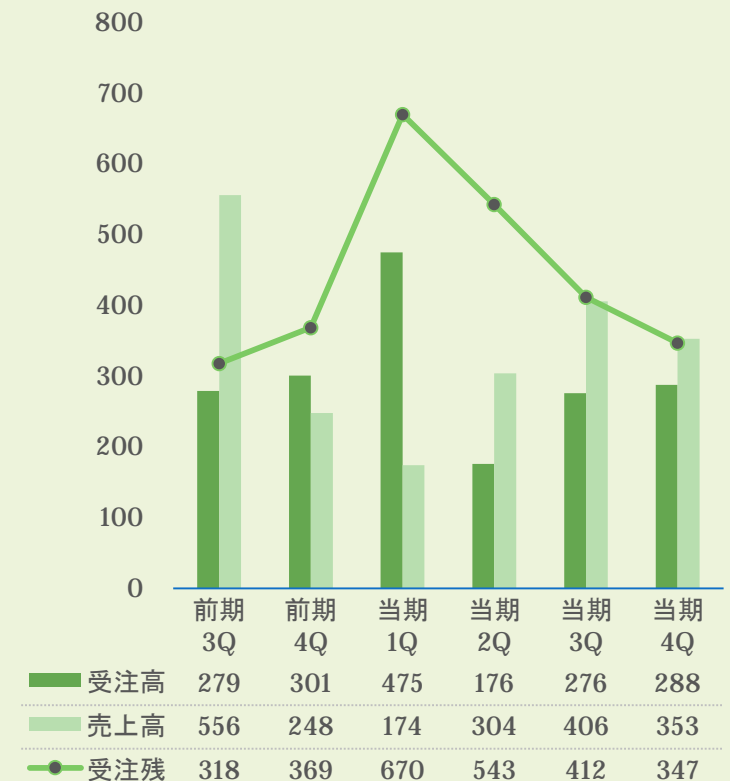
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位:百万円

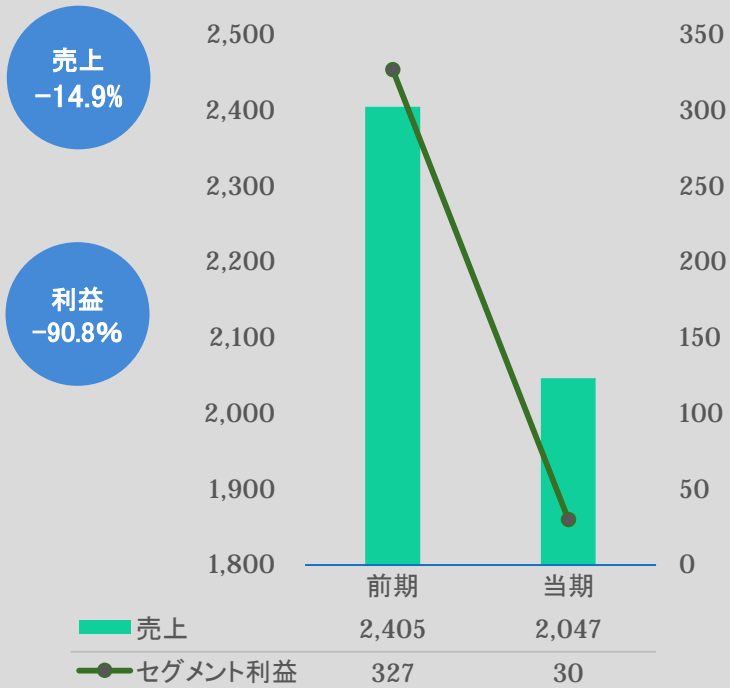
単位:百万円

単位:百万円

③ インダストリー4.0推進事業

- 精密除振装置の販売先である韓国有機ELディスプレイメーカーの設備投資の低調な推移に伴い減収
- 東京テクニカルの取得関連費並びにOlasonicの新製品の開発費等の一時的な費用の発生により上半期は1億円の損失と低調なスタートとなったが、下半期は3千万円の利益を計上
- Olasonicの新製品が有名ネットランキングで注目度No.1を獲得。有名アーティストとのコラボレーションを実現

売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位:百万円

単位:百万円

単位:百万円

④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

連結貸借対照表

(百万円)	平成29年 5月期	平成30年 5月期	平成29年 5月期	平成30年 5月期	
資産			負債		
資産 計	5,015	6,597	負債 計	1,880	2,914
流動資産	4,142	5,323	流動負債	1,257	1,871
固定資産	872	1,273	固定負債	623	1,043
有形固定資産	445	635			
無形固定資産	300	475	純資産		
投資・その他の資産	126	162	純資産 計	3,134	3,682
			株主資本	3,136	3,668
			資本金	610	610
			資本剰余金	1,513	1,570
			利益剰余金	1,232	1,804
			自己株式	-220	-317
			その他の包括利益累計額	-1	14
資産 合計	<u>5,015</u>	<u>6,597</u>	負債・純資産合計	<u>5,015</u>	<u>6,597</u>

連結損益計算書

(百万円)	前期	当期
実績		
売上高	5,369	6,009
売上原価	3,560	3,329
売上総利益	1,808	2,679
販売費及び一般管理費(注)	1,373	1,673
営業利益	435	1,006
経常利益	417	988
特別利益	115	-
特別損失	3	1
税金等調整前当期純利益	528	986
法人税、住民税及び事業税	121	295
法人税等調整額	12	4
法人税等合計	134	300
当期純利益	394	686
親会社株主に帰属する当期純利益	394	686

(注)販売費及び一般管理費のうち主な費用

研究開発費	68	109
のれん代償却	50	48

⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による キャッシュ・フロー

463百万円

(百万円)	前期	当期
税金等調整前当期純利益	528	986
たな卸資産の増減額	△329	△538
その他の増減額	△351	153
小計	△152	601
利息及び配当金の受取額等	△127	△137
営業活動によるキャッシュ・フロー	△280	463

財務活動による キャッシュ・フロー

△205百万円

(百万円)	前期	当期
短期及び長期の借入による純支出	39	△251
社債による純収入・損失	△50	225
配当金の支払額	△59	△114
その他の増減額	△83	△65
財務活動によるキャッシュ・フロー	△153	△205

投資活動による キャッシュ・フロー

26百万円

(百万円)	前期	当期
定期預金による純収入	27	364
有形・無形固定資産の取得による支出	△120	△95
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△426
保険積立金解約による収入	—	178
その他の収入・支出	12	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△81	26

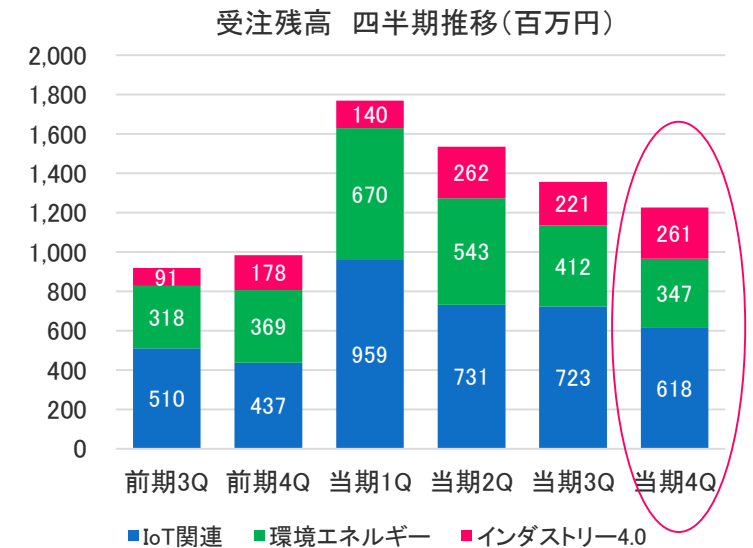
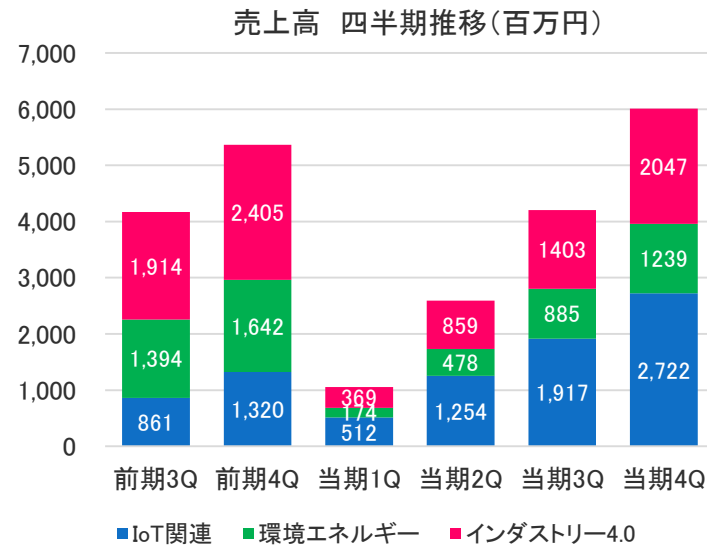
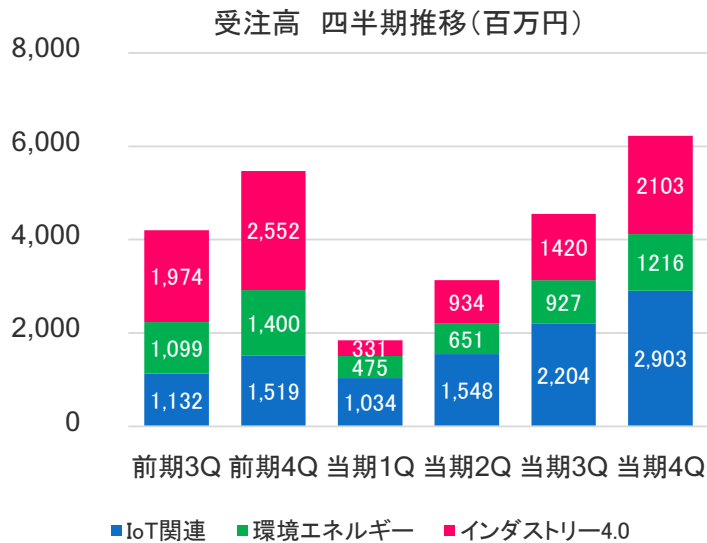
現金及び現金同等物の 当期末残高

2,220百万円

(百万円)	前期	当期
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	0
現金及び現金同等物の増減額	△509	285
現金及び現金同等物の期首残高	2,444	1,935
現金及び現金同等物の期末残高	1,935	2,220

⑥ 受注高・売上高・受注残高

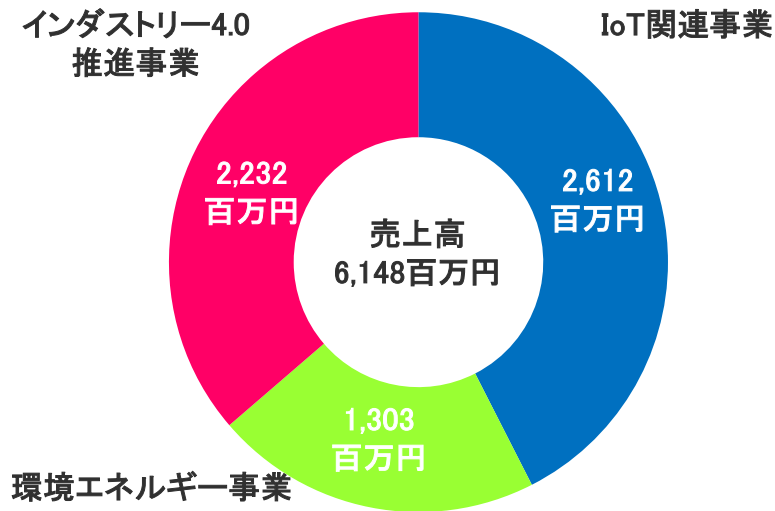
事業セグメント (百万円)	受注高		売上高		受注残高	
	当期	前年比増減率	当期	前年比増減率	当期	前年比増減率
IoT関連事業	2,903	91.1%	2,722	106.1%	618	41.3%
環境エネルギー事業	1,216	△13.1%	1,239	△24.6%	347	△6.1%
インダストリー4.0推進事業	2,103	△17.6%	2,047	△14.9%	261	46.8%
合計	6,223	13.7%	6,009	11.9%	1,227	24.5%



3. 平成31年5月期 通期連結業績予想

平成31年5月期 通期連結業績予想

- IoT関連事業の属するイメージセンサ業界においては、従来のスマートフォン向けに新たに車載用カメラ向けの設備投資が加わり当社製品に対する需要は引き続き堅調に推移すると予想。一方、過去最高益となった前期に対して売上高については微減と保守的に予想
- 環境エネルギー事業の属する印刷機業界においては、国内の設備投資は低調に推移すると予想。中国市場向け排ガス処理装置の販売を強化
- 精密除振装置の属するFPD及び有機ELディスプレイ業界においては、中国FPD及び有機ELディスプレイメーカーの設備投資が堅調に推移すると予想。また、歯車計測機の販売強化とOlasonic製品のラインナップの拡充に尽力



(百万円)	平成30年 5月期実績	平成31年 5月期予想	前年比 増減率
売上高	6,009	6,148	2.3%
営業利益	1,006	1,001	△0.4%
経常利益	988	1,010	2.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	686	606	△11.7%
1株当たり当期純利益	72.58円	64.16円	

4. TOPICS



週刊東洋経済 半導体関連 増益企業 ランキングの4位にランクイン

週刊東洋経済 2018年6/30号において、半導体
&電池銘柄（半導体）増益企業ランキング55社
の4位にランクインしました！

Olasonic



DADAレーベル向けモデルの発売

ミュージシャンのASKAさんが立ち上げた音楽
レーベルである「DADALレーベル」にて、ハイレ
ゾ対応USBパワードスピーカー（TW-S9）をベ
ースとしてオリジナルのチューニングを施した卵
型スピーカーを発売しました。
ファン向けに発信するSNSサイトで販売され
ると、瞬く間に完売になるほど話題になっていま
す。



世界最高音質を目指した新商品 Bluetoothスピーカーを発売！

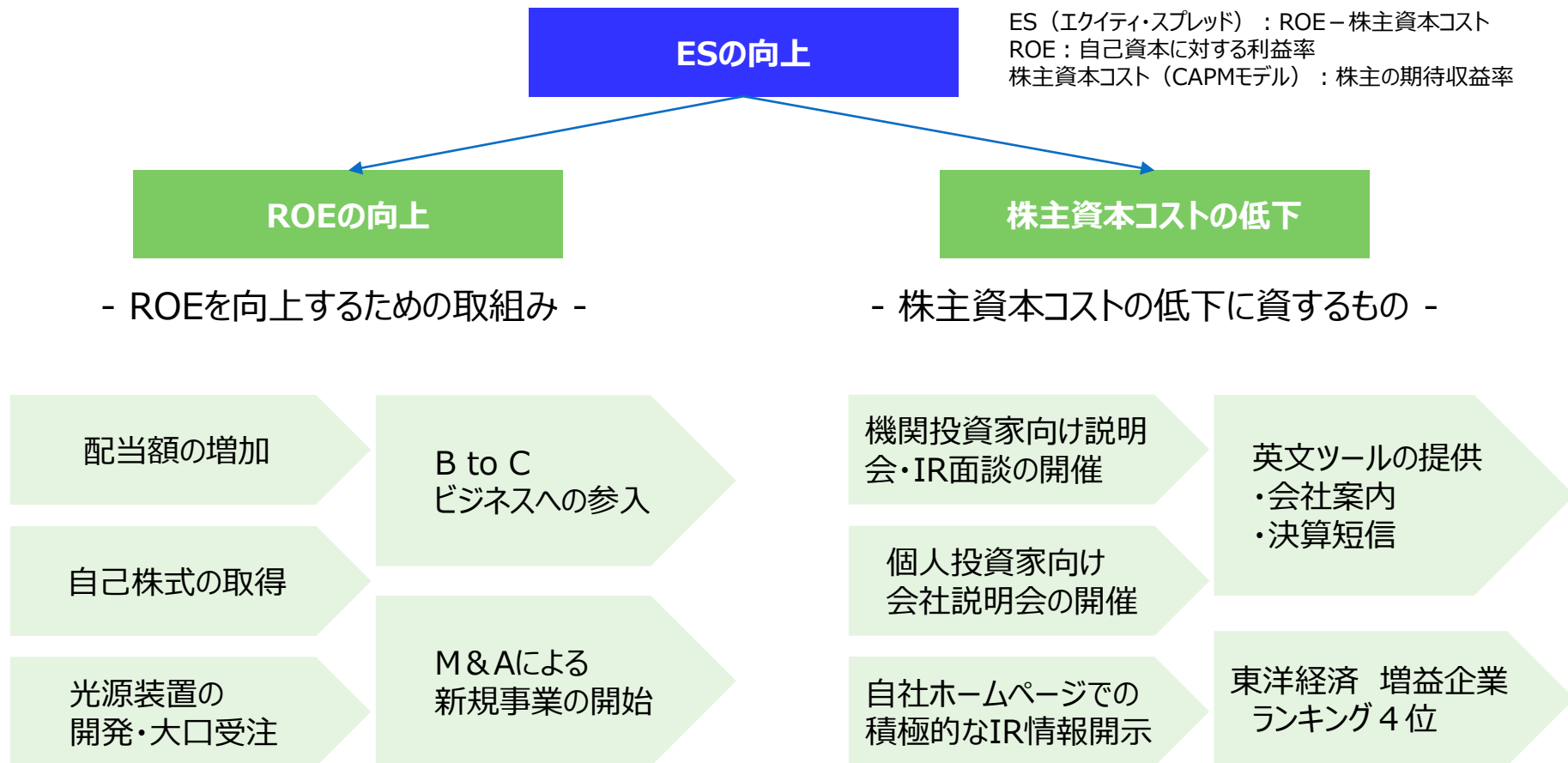
Olasonicが持つ高音質スピーカー技術と木製
高音質キャビネットを融合し、感動の最高音質
をスマートフォンユーザーに届けるべく開発した
新商品『IA-BT7』を新生“Olasonic”ブランドの
第一弾として発売しました。
有名アーティストとのレコーディングを手掛ける
エンジニア集団による音質チューニングでサウ
ンドイメージをリアルに再現しています。

5. 企業価値向上の取り組み

企業価値向上の取り組み

➤ 29年5月期ROE:13.2% 30年5月期ROE:20.1% 株主資本コスト:6.8%

29年5月期 ES:6.4% 30年5月期 ES:13.3%





注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。



appendix - 会社紹介 -

会社概要

Company profile

商号 株式会社インターアクション
INTER ACTION Corporation

上場市場 東京証券取引所
市場第一部

設立 1992年6月25日

証券コード 7725

代表者 代表取締役社長 木地 英雄

事業年度 自6月1日 至5月31日

資本金 6.1億円

URL <http://www.inter-action.co.jp>

従業員 191名(2018年5月末時点 グループ全体)

グループ会社
株式会社エア・ガシズ・テクノス
明立精機株式会社
株式会社東京テクニカル
西安朝陽光伏科技有限公司
陝西朝陽益同精密設備有限公司
MEIRITZ KOREA CO.,LTD
MEIRITZ SHANGHAI CO.,LTD
Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp.

本社所在地 神奈川県横浜市金沢区福浦1-1
横浜金沢ハイテクセンター14階
TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371

事業所 横浜市中区・千葉市中央区・熊本県合志市

経営方針

Strategy

重要指標

Equity Spread
ROE
WACC

配当方針

総還元性向30%

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

事業ポートフォリオ

Port folio

環境エネルギー事業

印刷機向け乾燥脱臭装置
排ガス処理装置

IoT関連事業

CCD・C-MOSイメージセンサ向け
検査用光源装置・瞳モジュール

インダストリー4.0 推進事業

精密除振装置
業務システム開発
3Dモデリング設計
歯車検査装置
Olasonic

メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

http://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/

もしくは下記QRコードよりご登録下さい。

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみに使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております「個人情報保護方針」をご参照下さい

<http://www.inter-action.co.jp/privacy/>



お問い合わせ

株式会社インターアクション

経営管理部 IR担当

神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14F

TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371

<http://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい

